

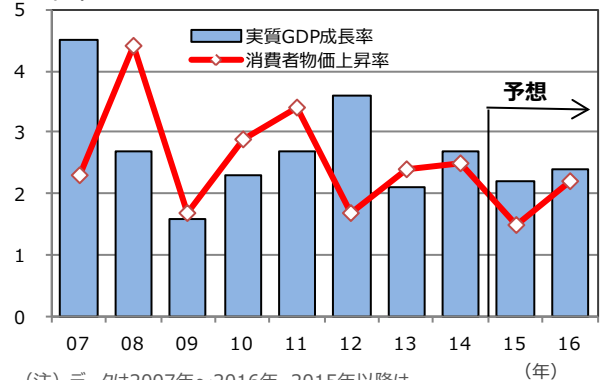
今日のトピック 2016年の豪州経済の見通し

家計部門をけん引役に景気は緩やかに加速へ

ポイント1 足元の景気は底堅く推移 利下げ効果が表面化

- 景気は底堅く推移しています。資源価格の下落により鉱業部門の設備投資は低迷していますが、利下げ効果と良好な雇用環境に支えられ、個人消費と住宅投資が拡大を続けているためです。
- 中国経済の減速などから資源に対する需要は停滞しているものの、低コスト・高品位の豪州産資源に対する引き合いは根強く、輸出も上向いてきました。
- 消費者物価上昇率は、足元まで豪州準備銀行（RBA）の物価目標である2%～3%の下限を下回る水準で推移しています。

(%) 実質GDP成長率と消費者物価上昇率

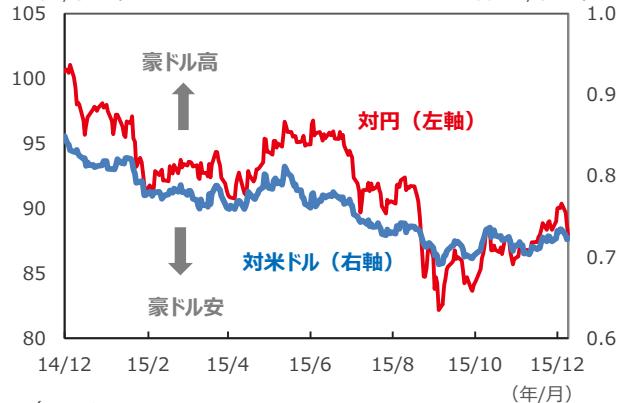


(注) データは2007年～2016年。2015年以降は三井住友アセットマネジメントの予想。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 景気は緩やかに加速へ 家計部門が拡大をけん引

- 企業の景況感が持ち直しつつあり、労働需要は増加基調にあります。低金利と良好な雇用・所得環境が、家計支出の増加を支える見込みです。
- 企業景況感の回復を踏まえると、16年後半には非鉱業部門の設備投資も底入れする見通しです。
- 16年の景気は、個人消費、住宅投資の拡大に加え、設備投資の立ち直りが見込まれるため、緩やかに加速すると予想されます。

(円/豪ドル) 豪ドルの対円、対米ドルレート (米ドル/豪ドル)



(注) データ期間は2014年12月1日～2015年12月9日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 日豪の金利差などから見て、豪ドルは底堅い推移へ

- 景気の拡大が緩やかなものにとどまることなどから、物価上昇率はRBAの目標範囲内で推移すると見られます。このため、RBAは来年いっぱい過去最低の政策金利（現行2%）を据え置く見込みです。
- 一方、日銀は現行の量的・質的金融緩和を当面継続すると予想されます。
- 日豪の金利差などから判断すると、豪ドルの対円レートは底堅く推移すると考えられます。

ここもチェック! 2015年12月9日 2015年を振り返るキーワード「原油・商品価格動向」（グローバル）
2015年12月1日 豪中銀、政策金利を据え置き、豪ドルは底堅い動き

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。